

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:都市局 街路交通施設課

担当課長名:筒井 祐治

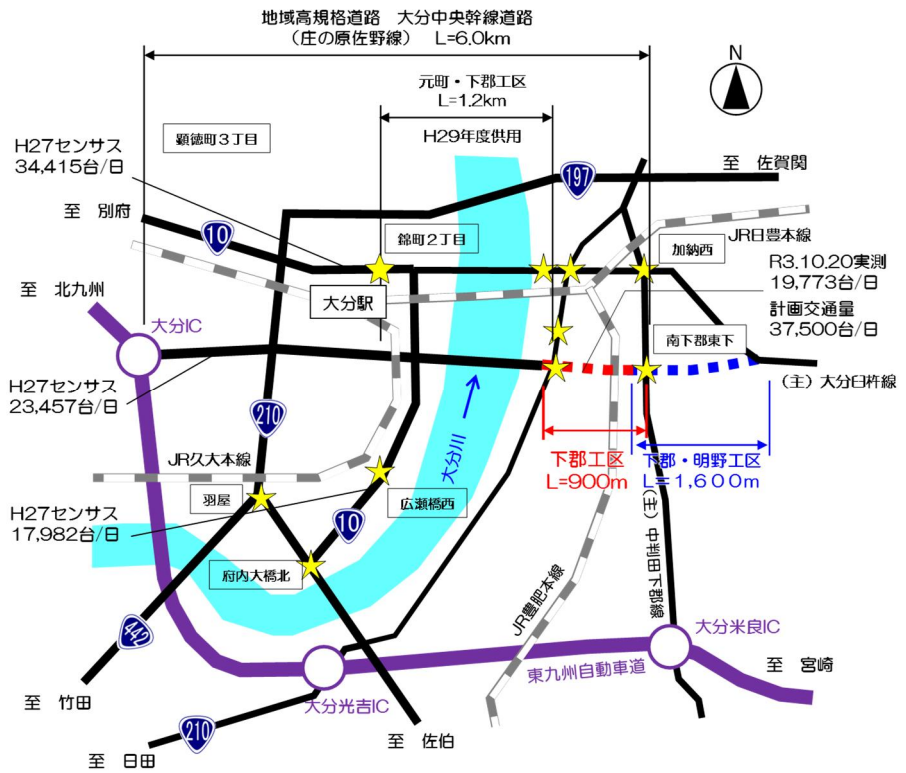
事業名	地域高規格道路 大分中央幹線道路 都市計画道路 庄の原佐野線(下郡工区)	事業区分	街路	事業主体	大分県
起終点	自:大分県大分市大字下郡 至:大分県大分市下郡南	延長	0.9km		
事業概要					
<p>地域高規格道路大分中央幹線道路は、「東九州自動車道 大分 IC」と大分米良 IC と接続する「(主)中判田下郡線」を結ぶ、延長約 6km の路線である。</p> <p>このうち、(都)庄の原佐野線(下郡工区)は、東九州自動車道等の広域幹線道路とのネットワーク強化や、周辺道路の交通渋滞の緩和に寄与することを目的とする延長0.9kmの街路事業である。</p>					
H29年度事業化		H28年度都市計画決定 (R元年度変更)		R元年度用地着手	
R4年度工事着手					
全体事業費	約220億円	事業進捗率	約66%	供用済延長	—km
計画交通量	37,500台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 50 / 224 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 286 / 286 億円	基準年
	1.3	5.3%	事業費: 49 / 223 億円	走行時間短縮便益: 224 / 224 億円	令和7年
	2.0 [2%]		維持管理費: 0.94/0.94 億円	走行経費減少便益: 41 / 41 億円	
	2.5 [1%]			交通事故減少便益: 22 / 22 億円	
	(残事業)	(残事業)	感度分析		
5.7	24.2%	(事業全体)	(残事業)		
8.2 [2%]		交通量	B/C=1.2~1.4(±10%)	交通量	B/C=5.1~6.3(±10%)
10.2 [1%]		事業費	B/C=1.3~1.3(±10%)	事業費	B/C=5.2~6.3(±10%)
		事業期間	B/C=1.2~1.3(±20%)	事業期間	B/C=5.5~5.7(±20%)
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通容量の拡大により特に朝夕通勤ラッシュ時の交通渋滞の緩和に寄与する。</li> <li>中心市街地と広域防災拠点である大分スポーツ公園や米良ICのアクセス向上が図れる。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。</li> <li>「大分都市計画区域マスタープラン」(H16.4策定、H23.3改訂、R3.3月改訂)において「特に優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間」に位置付けられている。</li> <li>沿線自治会で構成される「庄の原佐野線滝尾・明野地区促進期成会」等から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。</li> </ul>					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率100%、事業進捗率約66%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地の取得は完了しており、今後は早期完了を目指し、橋梁上部工および道路改良工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



凡例（現道課題）	
★	主要渋滞箇所

凡例	
—	開通区間
---	下郡工区
---	下郡・明野工区



※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)